

ナミビア共和国

主要データ

国名〔英名〕	ナミビア共和国〔Republic of Namibia〕
面積 (km ²)	824, 292
海岸線延長 (km)	1, 572
人口 (百万人)	2. 2
人口密度 (人/km ²)	2. 7
GDP (百万 US\$)	12, 720
一人当り GDP (US\$)	5, 901
主要鉱産物：鉱石	銅、鉛、亜鉛、金、銀、マンガン、ウラン
主要鉱産物：地金	亜鉛
鉱業管轄官庁	鉱山エネルギー省 (Ministry of Mines and Energy)
鉱業関連政府機関	地質調査所 (MME Geological Survey)、国立地球科学・エネルギー情報センター (National Earth Science and Energy Information Centre)、地質経済課 (Economic Geology Subdivision)
鉱業法	鉱物資源法 (Minerals Act, 1992)、鉱業憲章策定中
ロイヤルティ	同上
外資法	外国投資法 (Foreign Investment Act, No. 24 of 1993)
環境規制法 (環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等)	特になし (鉱物資源法 (第 128 条及び第 130 条) に記載有。)
鉱業公社	Epangelo Mining Ltd. (2009. 12 設立)
鉱業活動中の民間企業	Rio Tinto (英・豪)、Exxaro Resources (南ア)、Weatherly International plc. (英)、Sterlite Group (印)、Glencore International (瑞)、CGNPG (中)、Kombat Copper (加) 等
近年の鉱業関連問題 (資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等)	・ 近年、鉱業憲章改訂や国営鉱山会社の設立に加え、鉱石輸出税や超過利潤税の導入の決定など、資源ナショナリズムを強化する鉱業政策の見直しの動きが盛んである。
2011 年のトピックス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2011 年 4 月、戦略的鉱物 (ウラン、金、銅、ダイヤモンド及びレアアース等) の新規の探鉱・開発案件については、国営鉱山会社 (Epangelo 社) にのみライセンスを付与するとの閣議決定を実施。 ・ 2011 年 8 月、政府は、鉱石の付加価値化を促すため、最大 2% の鉱石輸出関税の導入、及び超過利潤税 (windfall tax) の導入を可能にする税制改正案を承認した。詳細な税率等については、現時点 (2012 年 6 月) では公開されていない。

1. 鉱業一般概況

ナミビアの主要産業は、鉱業、漁業、農業、観光であり、中でも鉱業は輸出額の 5 割以上を生み出す主力産業である。特にダイヤモンド分野では、世界最大手 De Beers 社と共同で政府が会社を設立し、生産、加工等の高付加価値化を推進している。また、ウラン、亜鉛、銅、蛍石、金、銀等も主な生産物となっている。

Bank of Namibia の経済見通しによれば、ナミビア経済は、2011 年の GDP 成長率が 3.8%、2012 年は 4.2%と予想されている。2011 年の鉱業分野の GDP は、好調だった 2010 年の反動からダイヤモンド分野が前年比 16.4%減(123 万カラット)、亜鉛、ウラン等他の鉱業分野は同 20.2%減と減少した。2012 年にはダイヤモンド分野は引き続き前年比 19.8%減ではあるが、亜鉛、ウラン等他の鉱業分野は 7.3%増と好調に転ずると予想されている。

近年、ナミビアの鉱業においては、ダイヤモンドだけでなくウラン生産の増大が注目されている。同国のウラン探鉱は 1950 年代後半に始まり、1960 年代後半からは大規模な探鉱が始まった。その結果、国内に多くのウラン鉱床・鉱徴地の分布が判明し、既知ウラン資源量は 27.5 万 t(世界全体の 5%)、世界第 8 位となっている。同国のウラン資源は、低品位ながら規模が大きいという特徴を有している。2011 年のウラン生産量は 3,258t で、カザフスタン、カナダ、豪州、ロシア、ニジェールに次いで世界第 6 位である。

現在生産中の鉱山は Rossing 鉱山(1976 年生産開始)及び Langer Heinrich 鉱山(2007 年生産開始)の 2 鉱山であるが、近い将来、Trekopje 鉱山や Valencia 鉱山、また今後開発が進めば Husab 鉱山も生産を開始する予定で、今後、同国のウラン生産は大幅な増加が見込まれる。

2. 鉱業政策の主な動き

近年、同国では鉱業憲章の改訂や国営鉱山会社の設立に加え、鉱業の国有化や超過利潤税の導入の検討など、鉱業政策の見直しの動きが盛んである。

2009 年 4 月、政府は、排他的探鉱ライセンス(Exclusive Prospecting License)の新規申請や更新の際には、現地株主所有権の導入や現地貧困対策への取組みを求めることを発表し、既に 2010 年 10 月には、Anglo American 社(英)から Vedanta 社(英)への Skorpion 亜鉛鉱山の権益売却の承認に際して、政府競争政策委員会(NCC)は、地方投資家への株式売却の勧告等を実施した。こうした中、政府は 2010 年、鉱業憲章の骨子を発表し、パブリックコメントに付したが、最終的な策定はされていない。

一方、ウラン政策については、2007 年から新規のウラン探鉱ライセンス交付を猶予するモラトリアム政策を実施している。2009 年 2 月、政府は原子力エネルギー・放射能保護法に基づき、ナミビア原子力委員会(Atomic Energy Board of Namibia)を立ち上げた。同委員会は数年中にウランの探鉱と開発が増加することを見込み、同国の原子力エネルギー政策を策定する方針としている。

また、2008 年 7 月、ナミビア国営鉱山会社 Epangelo Mining Ltd. が 100%政府出資(150 万 N\$; 約 1.8 億円)で登記され、2009 年 12 月 3 日に正式に設立している。2010 年 8 月にはダイヤモンドのカット・研磨を行う国営企業 NamGem のトップであった Eliphaz Hawala 氏を社長に迎え、事業活動を開始するなど鉱業における国の関与の増大に向けて存在感が増している。なお、2012 年 2 月、Epangelo 社は、Katali 鉱山エネルギー大臣立ち会いの下、THL Zinc Namibian Holdings(Vedanta Resources(本社：ロンドン)の現地法人)と、ベースメタル、石炭等の探査において技術面、資金面での協力に係る MOU に署名した。なお、Epangelo は現在、17 件の探鉱ライセンスを保有し、今後さらに 18 件を取得する見込みである。

一方、2011 年 4 月、政府は戦略的鉱物(Strategic Minerals：ウラン、金、銅、ダイヤモンド及びレアアース等を含む)の探鉱及び採掘ライセンスを国営公社のみ(現在想定されるのは Epangelo Mining 社 1 社)に付与するとの閣議決定を行った。これに対して、2011 年 5 月 10 日付で Katali 鉱山エネルギー大臣は『ナミビアの鉱業における官民パートナーシップに関して』と題した声明文を発表し、上記閣議決定は、既得のライセンスには適用されないことを明確にした。同声明文の中で、Katali 大臣は、今般の閣議決定は同国の憲法に則る措置であることに言及するとともに、この閣議決定について、ナミビア鉱業会議所からの質問状への回答を紹介する形で、以下のような政府見解が公表された。

- ・ 既得の探鉱ライセンス及び開発ライセンスの延長には適用されないが、探鉱活動を長期間行っていない場合には、既存ライセンス保有者に不利な影響のないように政府との共同開発について検

討を行うこと。

- ・ 現在既に行った探鉱ライセンスまたは開発ライセンスの申請、さらには既存の探鉱ライセンスから採掘ライセンスへの移行申請に関しては、従来の制度に従って、実績に基づき審査されること。ただし、増資(債務の株式化を含む)を行う場合、ナミビア政府が優先交渉権を要求する可能性がある。
- ・ 既存の採掘ライセンスに隣接する探鉱ライセンスを採掘ライセンスに移行する場合には、既存の採掘ライセンスに組み入れるが、ライセンス保有者の開発能力が十分でない場合には、新たな共同開発がオプションとなり得ること。
- ・ 既得の探鉱ライセンスに新たな鉱区及び鉱物を追加する場合には、新規の申請とみなされることから、今回の閣議決定が適用されること。

2011年8月、政府は、鉱石の付加価値化を促すため、最大2%の鉱石輸出関税及び超過利潤税(windfall tax)の導入を可能にする税制改正案を承認した。通常の法人税及びロイヤルティに加えて課される超過利潤税の課税額に関しては、今後最終的な決定が下されるとされているが現時点(2012年6月)では情報はない。

一方、財源強化のためダイヤモンド以外の鉱種に対する鉱業税を現在の37.5%から44%へ引き上げる計画に関しては、産業界からの懸念を受け検討をした結果、断念すると発表されている。

なお、2010年7月、JOGMECは、同国鉱山エネルギー省(The Ministry of Mines and Energy of the Republic of Namibia)と鉱物資源の探査・開発など資源分野で関係強化を図る包括的な内容の覚書(MOU)に署名した。今後、衛星画像データを用いたデータ解析手法について共同技術開発を開始する予定である。

3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

(1) 主要金属鉱石生産量

表 1-1. 金属鉱石生産量

鉱種	2009年	2010年	2011年	対前年増減比(%)
銅(千t)	-	-	3.4	-
鉛(千t)	10.2	10.2	8.0	-21.6
亜鉛(千t)	198.0	204.2	192.1	-5.9
銀(t)	0.7	-	-	-
マンガン(千t)	51.5	131.5	41.9	-68.1
ウラン(t)	4,537	4,494	3,258	-27.5

(出典: World Metal Statistics 2012)

(2) 主要金属地金生産量

表 1-2. 金属地金生産量

鉱種	2009年	2010年	2011年	対前年増減比(%)
亜鉛地金(千t)	150.4	151.7	145.6	-4.0

(出典: World Metal Statistics 2012)

(3) 主要金属消費量

表 1-3. 金属地金消費量

鉱種	2009年	2010年	2011年	対前年増減比(%)
亜鉛地金(千t)	84.1	93.0	82.8	-11.0

(出典: World Metal Statistics 2012)

(4) 主要金属輸出货量

データなし

(5) 主要金属輸入量

データなし

4. 鉱山・製錬所状況

表 2-1. 鉱山一覧

鉱山名	権益所有企業(権益：%)	鉱種	生産量 (千 t)	備考
Otjihase 鉱山	Weatherly International plc. (100)	銅	4.0	生産量：2011年 ・2008年12月生産休止。2011年から生産再開したものの、輸送工程のトラブル、悪天候により生産量が予想より減少。
Tschudi (Tsumeb West) 鉱山	Weatherly International plc. (100)	銅	1.2	生産量：2009年 ・2009年から生産休止。現在鉱区再評価中。
Kombat 鉱山	Kombat Copper (80)、 Epangero (10)、 Grove Export CC (10)	銅	1.3	生産量：2008年 ・2009年以降生産休止中。 ・2010年5月、Weatherly Int'l 社から Grove 社が買収。 ・2011年4月、Kombat Copper が買収。
Skorpion 鉱山	Sterlite Group (100: Vedanta Resources plc. が 53.9%の株式保有)	亜鉛	145.0	生産量：2011年 ・現在、Epangero と権益譲渡について交渉中。
Rosh Pinah 鉱山	Glencore International (80.08)、 Mine Workers (19.92)	鉛精鉱、 亜鉛精鉱	10.1 19.0	生産量：2010年 ・2011年は生産中止。 ・2011年12月、Glencore が Exxaro 等から買収。
Rossing 鉱山	Rio Tinto (68.6)、 イラン政府 (15)、 Industrial Development Corp. (南ア政府) (10)、 ナミビア政府 (3)	ウラン (t)	3,203	2011年2月、Rio Tinto と Extract 社は、Rossing 鉱山に隣接する Husab 鉱山の共同開発について検討。 生産量：2011年(Target)
Langer Heinrich 鉱山	Paladin Energy Ltd. (100)	ウラン (t)	16,000	生産量：2011年

表 2-2. 製錬・精製所生産状況

製錬・精製所名	権益所有企業(権益：%)	鉱種・形態	生産量 (千 t)	備考
Tsumeb 製錬所	Dundee Precious Metals Inc. (加) (100)	粗銅	180.4	生産量：2011年
Skorpion 製錬所	Vedanta 社 (100) (2010年10月以前は、 Anglo American が所有)	亜鉛	145.0	生産量：2011年 2010年10月、Anglo American から Vedanta 社が買収。

(出典：各社 Annual Report)

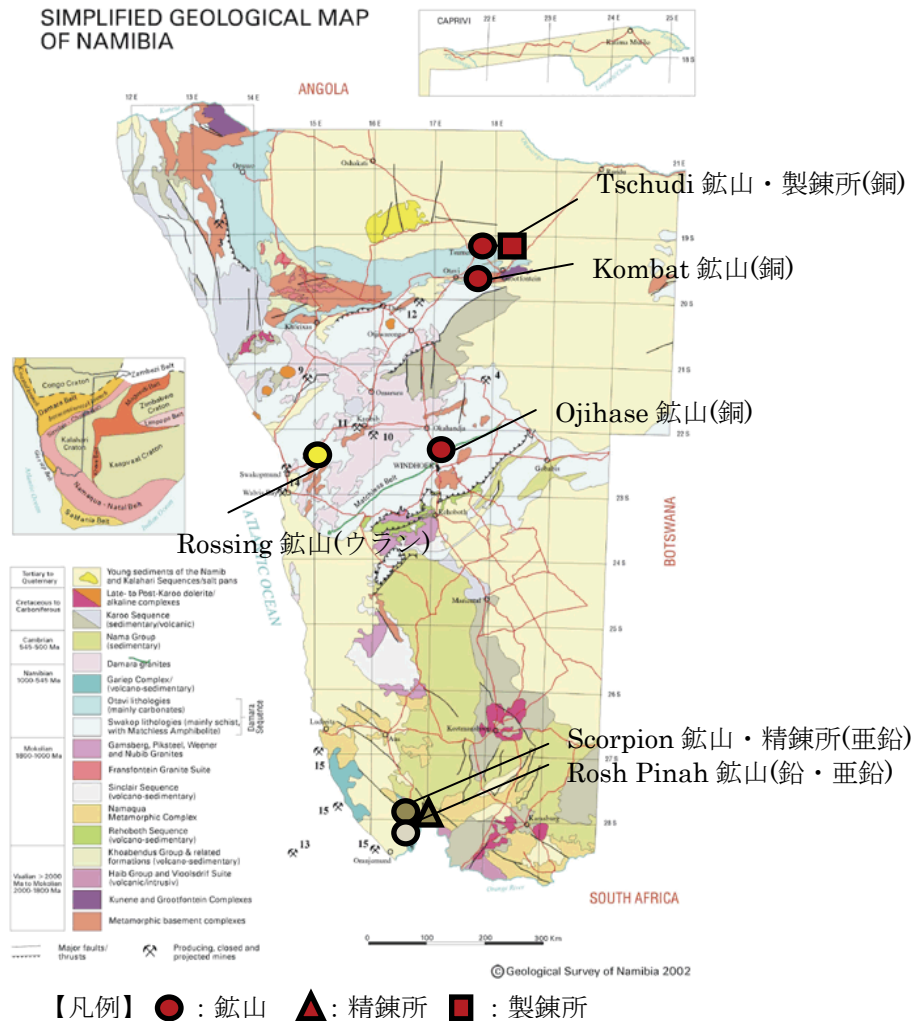


図1. 主要鉱山、製錬所、精錬所位置図
(出典：ナミビア地質調査所資料を基に作成)

5. 探鉱状況

・ Rössing ウラン鉱山の南方 5km に位置する Husab ウラン・プロジェクトは、Extract Resources 社が 2014 年からの操業を目指し、探鉱・開発中である。同社が 2011 年 8 月に発表した詳細 FS 結果によれば、鉱区 Zone1~5 のうち Zone1~2 の埋蔵量は 2 億 8,000 万 t (品位 518ppm、ウラン含有量は 3 億 1,990 万 lb)、開発総額は 16.6 億 US\$、年間 1,500 万 t 鉱石生産、年間 U₃O₈ 生産は 1,500 万 lb (約 6,800t)、マインライフ 20 年超、生産コストは 28.5US\$/lb となり、生産が開始されれば世界 3 大ウラン鉱山のひとつとなる予定である。今後、2011 年 6 月までに投資判断を行い、2014 年 Q1 に生産開始予定であるが、同社は並行的に、1,500 万 US\$ を投じて Zone3~5 の追加 FS を行う予定であり、これによりマインライフは最大 30 年に延長できるとされている。

2011 年 12 月、Extract Resources 社の筆頭株主である Kalahari Minerals 社 (40% 所有) は、中国広東核電集団 (CGNPG : China Guangdong Nuclear Power Group) が提示した買収オファー (2.4355 ポンド/株、(総額約 9.93 億 US\$)) を支持すると発表した。両社の交渉は、CGNPG から提示された同社の株式公開買い付けに伴う 6 か月間の制限が切れた 2011 年 11 月 10 日から開始されていた。

なお、今回の買収の前段階では、同プロジェクトの権益全体の 16.3% 相当を伊藤忠商事株が取得

していた。

- ・ 2011年1月、Weatherly International社(本社：London、AIM 上場)は、中国の East China Mineral Exploration and Development Bureau(有色金属華東地質調査局)と共同で、同国北部の Berg Aukas 鉛亜鉛旧鉱山の再開発で合意し、両社は新会社『China Africa Resources』を設立した。
- ・ 2011年5月、Vedanta社及びExxaro社は、Skorpion及びRosh Pinahからの将来的な鉱石供給のため、共同でGergarub 鉱区の探鉱を実施中。
- ・ 2011年、Omitiomire 銅プロジェクト(首都 Windhoek から北東に 120km)では、豪州 IBML 社が試掘等の探鉱活動を再開・継続中である。なお、同社は、Kalahari Copperbelt プロジェクトについても開発移行を検討中である。
- ・ Lofdal レアアースプロジェクト(ナミビア北西部)では、Namibia Rare Earths 社(Endeavor Mining Corp. 41%)が 2011年6～8月に7,500mの試掘を実施予定。さらに 2011年4月のトロント市場上場による2,500万C\$(0.80C\$/株)の資金調達を受けて、今後8～12か月かけて15,000mの試掘を行う予定である。今後2011年内から2012年4月の間で埋蔵量評価を行い、更に18か月に亘るNova社によるプレFSの後、FSを1～2年間で実施する予定で、4～5年先を予定している。
- ・ 2011年5月、Glencore International plc.(本社：スイス)は、Rosh Pinah 亜鉛鉱山の権益 50.04%をExxaro Base Metals and Industrial Holdings(本社：南ア)から取得したと発表した。また、PE Minerals社(本社：ナミビア)とJaguar Investment Four社(本社：英)が保有していた同鉱山の株式 30.04%も取得し、2012年5月にはこれらの権益 80.08%の買収について政府競争力委員会から承認を受けたと発表した(残りの 19.92%は同鉱山の従業員が保有)。なお、Rosh Pinah 亜鉛鉱山は1969年より操業を行っている坑内掘鉱山であり、亜鉛精鉱の生産量は95千t/年、残存マインライフは8年と見込まれているが、現在、鉱量拡大に向けた探鉱が行われている。
- ・ 2011年11月、Deep Yellow社は、Ongola Alaskite 鉱床の鉱量について3倍の2,050万t、品位400ppmとなったことから、Omahola ウランプロジェクト全体では3,860万t、平均品位338ppmと発表した。
- ・ 2012年4月、Bannerman Resources社(本社：パース)は、Etango ウラン・プロジェクトに係る詳細なFSの結果、精測及び概測鉱物資源量の80%は、ウラン酸化物119.3百万lbを含む確定及び推定鉱石埋蔵量に転換され、露天採掘の最低マインライフは16年で当初5年はウラン酸化物年産6～8Mlbs、その後は年産7～9百万lbの生産が見込まれるとした。なお、同社は、Epangelo社と、当初Epangeloがプロジェクトの権益5%を所有し、鉱山開発決定後、さらに5%を取得するオプションを保有する契約を結んでいる。

6. 我が国との関係

(1) 日本への輸出

表 3. 日本への精鉱・地金輸出量

鉱種	2009年	2010年	2011年	対前年増減比(%)
亜鉛地金(t)	13,517	7,986	4,511	
粗銅及び銅アノード(t)	-	4,582	875	

(出典：財務省貿易統計)

(2) 日本企業による投資状況等

特になし

7. その他トピックス

特になし

(2012.6.8 ロンドン事務所 萩原崇弘)